

2017年4月

留学生のためのカウンセラー通信 第12号

保健管理センター 留学生担当カウンセラー 生田 かおる

弱さの心理学

友だちから「弱いやつだ」と言われたらどんな気持ちになりますか。
目標を達成できなかった時、例えば、大事な試合に負けた時や入試や入社試験に失敗した時に、私たちは自分のことをだめだと思い、自分の弱さを悔やみます。

弱いという言葉には、能力がない、力がない、忍耐力がない、意志が弱いといった否定的な意味があります。通常、ロボットはある任務を完璧にこなすように作られますが、豊橋技術科学大学の岡田先生は、あえて「弱いロボット」を開発しています。一つの例が、周りにいる人を巻き込むゴミ箱です。そのロボットは筒型のゴミ箱で、部屋のごみを見つけることはできますが、自力で拾うことができません。そのごみを拾い、ロボットに入れてくれるように、と誰かにお願いするようプログラムされています。ゴミ箱は、お辞儀をするといったしぐさでお願いします。これまでのロボットとは全く異なるやり方です。岡田先生は、できないことは周りに頼ってもよいという発想でロボットを開発しました、と話しています。ロボットの役割は、周りにいる人を巻き込んで目標を達成し、誰かの役に立ち、協力ができるという喜びを関わった人に伝えることだ、と説明しています。「弱いロボット」をとおして、弱さは人との関係を豊かにする機会を与えてくれる、という新しい見方を岡田先生は示しているように思われます。

私は7年前に手術を受け、以前より身体能力が弱くなりました。歩くペースも遅くなったので、そうした状態を知らない人と歩く時は、「以前のような身体能力がないので、あなたのペースに合わせて歩くことができません」と言う必要があります。身体能力が回復する見込みはないので、弱さとともに生きるには、弱いロボットのように、できないことは人に伝え、お願いします。伝えることで、相手の方には私の弱さに対する新たな理解が生じます。伝えないと、相手にペースを合わせることでくたくたになってしまいます。

留学生オリエンテーションでは、周りの人に援助を求めることは恥ずかしことではない、とお伝えしています。私たちは一人で完璧にできるように、と教育されてきましたが、困った時は、周りの人に頼ってよいのです。援助を求めること、弱さを伝えることで、周りの人とつながることができます。そうしたつながりは、あなたを助けます。援助した人もそこから得るものがあります。留学生のお手伝いをしたことは、自分のことを考え、将来を考えるのに役に立った、と多くの日本人学生が振り返っています。

今月号では、弱さは人との関係を豊かにする機会を与えてくれるという新しい見方をご紹介します。

*相談予約を取りたい方は、保健管理センターまで。 ☎ : 045-339-3153

*バックナンバーは国際教育センターのHPで読むことができます。